

1 はじめに

本校の児童は、明るく素直で、言われたことはきちんとやり遂げようとする事ができる。しかし、大勢の前に出ると、自分の意見を積極的に述べる事が少ないという実態がある。

そこで、大勢の前でも堂々と自分に意見を発表するとともに、時と場に応じた声の大きさを意識させることをねらって、集会活動を実施している。

2 目的

国語科と関連させながら計画・実施をすることで、「話す・聞く」場を保障する。
自分を知り自己肯定感を高めるとともに、互いのよさを認め合う。

3 実施要領

(1) テーマについて

サイコロの出た目により6項目の中から発表のテーマを決める。

サイコロは次の発表者が自分でふる。(前年と同じテーマの場合はふり直し可)

(2) 発表の順番について

アピールタイムについての説明後、くじ引きで発表順を決める。

1年生は2学期からとする。

(3) 発表の内容について

事前に学級担任や家族、友達などによく相談して原稿を作る。

原稿を読まずに発表できるように十分に練習をする。

内容をうまくアピールできるように、発表方法を工夫する。

(4) 司会について

発表順に従い、次回発表者が司会をする。

うまく進行できるように、事前に十分に練習しておく。

(5) 質問・感想発表

発表後、もっと聞きたいことや感想などを全員で発表し合う。

場に応じた話し方や対応ができるように支援する。

発達段階に応じた内容の発表ができるように支援する。

(6) 感想カード

アピールタイム終了後、感想カードを書く。

発表者に対して肯定的な感想を書くように支援する。
集まった感想カードは、発表者の写真とともにホールに掲示する。

(7) その他

発表の場所は、ホールを基本とするが、テーマによって変更してもよい。

4 実践例

(1) テーマ びっくりしたこと

(2) 内容

家の人を作ったびっくり箱で「びっくり」したことを発表した。

実際にびっくり箱を用意して、全員の前で箱を開けて、みんなをびっくりさせるなど、発表の仕方にも工夫が見られた。



集会後は、全員が書いた感想カードを貼り、ホールに掲示し、保護者や地域の人にも見てもらっている。

5 考察

発表者は、あらかじめ原稿を書いてきているので、趣向を凝らしながら堂々と発表することができている。また、予期せぬ質問が出て、何とか受け答えができるようになっている。

しかし、発表者以外の者は、質問や感想発表の場面になると、なかなか発表できない児童もいる。事前の指導や事後の指導を適切に行い、毎回1回は発表できるようにしていきたい。